

ウオッチング 多摩ニュース

第92号

2019年5月25日
ウオッチング多摩の会

2019年4月市議会選挙総括

チコちゃんに叱られる！

◆投票率が低すぎる、

今回 46・56% 前回 48・46%

- ・市民は自治体の大半は議会が決定権を握っていることを知らない
- ・市民有権者の無関心、議会情報入手の少なさと偏りがありすぎる
- ・市民は議会に目を向けていない
- ・議員は仕事の中身（行政チェック・政策提案）を理解していないし、それでも困っていない

- ・地方統一選挙といっても、首長と議員が一緒に行われないため「首長対議員」の政策争点が見えてこない。
- ・私一人が投票にいつても何も変わらないと思っっている市民の怠慢

◆「議会の存在」、「議員定数と報酬」、など自ら

が身を切る議員でなければ議会改革は遠い
全国的には議員になりてがなく、無投票当選とか議会消滅自治体が見え始めている。多摩市市議会議員26に対し32の立候補者があり一見活発な選挙戦に見えるがそれが「みそぎ」とされ民主主義のアリバイを許している多摩市もあまり差はない

◆議会制民主主義は、投票率は少なくとも

50%以上でなければ民意は反映しない

党・会派は行政を使った政策の偏りの利益を生じさせてはならない。そのための議員数獲得の組織力選挙戦術は、市全体の利益を妨げることが多すぎる結果を招く恐れがある。市民が1票の重さを自覚し投票するしか解決策はなく、現状が多摩市民レベルの議会と諦めるしかないのか。

（神津幸夫記）



チコちゃんは、選挙得票状況から見えてくるものを知っている！

（参考）改選后会派構成

新生会	7名	公明	5名	共産	5名	フェアー	4名	ネット・社民	3名	一人会派	2名
藤原	4861	池田	1975	池田	1975	岩永	3352	岩崎	1689	篠塚	1702
桐木	2277	本間	1884	本間	1884	大野	2238	岸田	1455	斎藤	1260
松田	2030	荒谷	1830	荒谷	1830	折戸	1658	伊地知	1609		
飯島	1978	三階	1754	三階	1754	白田	2085				
山崎	1630	渡辺	1640	渡辺	1640						
遠藤	3153										
藤條	2496										
計	18425	計	9083	計	9083	計	9333	計	4753	計	2962
議員当	2600	議員当	1800	議員当	1800	議員当	2300	議員当	1580	議員当	1480

ニュース91号の公文書

批判に寄せられた声々

「理不尽な脅し、としか理解できない」
「考えは分かった」と市長。

取材には応じず

元号が替わっても、当たり前だけど時代が新しくなったわけではない。ここでは多摩市議選以前の話をする。前号（91号）で「ウオッチング多摩の会」（W会、神津幸夫代表）に対して文書回答を求めてきた市の公文書を取り上げ、その全文を掲げて会の考え方を書き、読者にご意見を寄せてほしいとお願いした。反応は早かった。「呼び掛け」の効果もあつたのだろうが、メールや会話などを見聞きすると91号の内容自体が読者市民の関心を引いたのだと思える。

報告が、申し訳ないことに大きく遅れてしまったが、その声々を紹介する。それらの声が市長公文書の内容に批判的だったのは当然と言えば当然だろう。批判があるから声は上がる。そういう声々に背中を押されて私は阿部市長や市議会内の反応を聞いて歩いた。市議選前のことだ。それについてもお伝えする。

報告が2カ月以上も遅れたのは4月21日の市議選前に出すのを遠慮したからだ。公文書問題はもちろん直接的には選挙とは無関係ではある

にしても、実はこの2つ、いずれも地方自治というテーマには深く関わる。1つは制度として、もう1つはその実質である市民の運動として。

まずは読者市民の声を、やや井戸端会議風になるが紹介しよう。（取材・報告 半田拓司）

「民主主義のイロハも理解してない？」

公文書についての読者の声は、例えばこういう風に耳に入ってきた。鶴牧に住むW会の会員は、近所の70代の男性に「驚いたね」と声を掛けられた。「市長の年代でこんなことを書くなんて。民主主義のイロハも理解していないのですかね。しかも新聞協会に長く勤務していたんですよ。」

その会員が毎朝ラジオ体操で一緒になる大学の先生（法学部教授、60代、男）は公文書の文章について苦笑しつつ「作成には市の幹部職員が何人か関与しているんだろうに、その結果がこの文章とはね。ちよつと理解し難いですね。市長は内容を了解したのだろうか」。それを聞いて会員「内容はもちろん市長も知っているでしょう。作った方は市長の意向を付度してドラフトしたんじゃないですかね」

文章については「こんな文章を出す市長」は「市民の恥だ」と強烈な言い方をした50代の多摩市民（男）もいた。強烈表現をそのまま続ける「ネットに出したら炎上ものの迷文です。でもネットに投稿したら多摩市民はバカだと笑われ

るよね」と最後は自嘲的になったそうだ。

「市長は何を怒っているのか」

「脅し」と受け止めた人も何人かいた。1人は鶴牧の団地に住む男性。会話の内容をメールに打ち直して送ってくれた。「理不尽な脅しとしか理解できない。市長は何を怒っているのだろうか。市の一部職員しか知らない情報が漏洩したことに對する憤りでしょうかね。よく理解できません」

別の60代の男性からは「まるで脅迫状だね」との声が届いた。「市長名でこんな公式文書が出るなんて信じられない。こんな文章を出す前に度重なる不祥事を何とかしてほしかった。理解できないね」（「こんな市長でもわれわれ市民が選んだ結果だよ」とは、それに返した会員の声）貝取の住民（60代、男）も公文書から同じような臭いを嗅ぎ取った1人だ。W会の活動について「行政や議会の牽制機能として市民にとって大切な活動であり制約を課してはいけないと考えます」とメールを送ってきて「今回の文書でこの感をさらに強く持った次第」と書いた。

鶴牧の女性（70代）は阿部市長は「市民目線と期待していたのに」と書いてきた。「今回は自らの保身のために元副市長や職員の不祥事を市民の眼から隠し、ウオッチングの会がその情報を流すと策を弄して脅しにかかったとしか思えません」

91号の記事に触発されて

「取材源の秘匿」についても論が集まった。やや憤激口調で話してくれたのは落合に住む70代後半の林政ジャーナリスト。私の長年のテニス仲間の1人だ。3月の初めに、コートで冷氣にかじかんだ手でよたよたとボールを打っていた私の傍に立って「ニュース読んだよ」と話し掛けてきた。彼は私がW会の活動に関係していることを知ってはいるものの、その活動に関わる会話はあまり交わしてこなかった。この時、彼の方から話を持ち出したのは91号の記事に彼の内部を触発する要素があったからだろう。

「市長が新聞協会にいたとはね」と彼はまず言った。知らなかったらしい。「事務局次長までやったはずだよ」と私が応じると「ほんとか。それにしちや、ひどいね」と彼は言った。「事務局次長と言えば現場のトップだろう。いちばん矢面に立つ役割のはずだ。いろんな経験をしてきたんだろうに」

日本新聞協会とは全国の新聞・通信社、放送局が会員になっている自主的な組織で、日本のジャーナリズム組織の要の位置にあると言ってもいい。阿部市長と同じようにその世界で働いてきたこの林政ジャーナリストが、後で電話で聞いたら、91号の記事でいちばん問題だと思ったのはやはり「情報源を明かせ」という市の公文書の「要請」だった

「ナメられてるんじゃないの?」

「マル秘の情報源は向こうがOKしてくれるなかったら言えない。誰から聞いた、なんて記者仲間でも簡単には聞けないことだよ。当たり前前の話だ。そんなことをペラペラしゃべるようにじや記者商売は成り立たない。信用されなくなるからな。新聞協会にいたらそんなことくらい常識のはずだ。おタクたちがナメられてるんじゃないの（笑い）。あの市長は一応は革新市長なんでしょう。それがまるで自民党の安倍政権みたいだな。最近では官房長官が気に入らない記者の質問には答えない、とか。あんなことを許していたらとんでもないことになる」

先の鶴牧の人も、W会が市長の「要請」に感じなかったことに「取材源の秘匿」を理由に拒否するのは妥当だと私も思う」と書いてきてくれた。貝取の60代男性は今度の公文書騒ぎが市役所内の一連の不祥事の内部通報から始まった事情に触れて「真相解明を望む多摩市民は市長の敵ですか」と書いた。この人は「市民感覚を理解しない市長」という感想を持ち、市の公文書が「写し」の入手経路を知りたい根拠として「公益通報制度を損ない関係職員のプライバシーや名誉を害する」と理由を挙げているのについてこう述べている。「制度の信頼性や市職員（申告者も含む）のプライバシーや名誉が、今回の不祥事より重い内容であるとはとうてい思えなく、更に一方的に断定しているのは重大な問題である」

世の中の動きとは正反対だ

公文書問題とは別に、読者の反響の中にはハコもの（建築物）の新設についても疑問の声が強かった。例えば先の大学の先生。「パルテノン多摩の改修に85億も使おうとしているというのは本当ですか。図書館新設には50億ですって？世の中の動きとは正反対と思うけど、なんでこんなことをするんでしょうね」。それを聞いた会員は「将来に大きな負債を残すことを懸念して折に触れて発言はしているんですが、市は大きな金を投入することに奔走していますよ」

「取材源の秘匿」で取材記者の立場から話してくれた林政ジャーナリストはこの問題にも関心を示して「135億だってね」と大きな声で「都市計画税を充てるとか言っても全部税金だし、市債を発行するのは国と同じように利息の付いた金を借りるということで市民の借金になる。高度成長時代じゃないんだから、まず出る方を抑えるべきなんだよ」

同じような声は50代の多摩市民（男）からも上がっていた。「インフラの老朽化が目前に控えている中で新設に大金をつぎ込むのは20年、30年先を考えると空恐ろしいね」。この人は付け加えてこうも言った。「立场上、表立ってものが言えない市民も多くいることを忘れてはならないと思う」。

市議会も役所も「身内」の意識

91号には公文書問題のほかにも別の記事も載っていた。市役所内部の不祥事に関する調査の中間報告が、予定されていた去年の6月にはされなかったという事実についてのきくち克行さんの投稿である。きくちさんはその中で最終報告で不祥事の責任を問われている副市長が6月に退職したこととの関連性を問題にして、中間報告が6月に公になつていたら「副市長の退職は円満に認められた」か、と提起した。

読者の声はこの件にも敏感に反応している。中間報告をしなかったのは「経緯を見ると副市長の免責を狙ったものとみなされても仕方がない。中間報告を公表してもらいたいものです。そこに副市長の責任が記載されているのであれば本人に伝えて罰則を与えるべきでしたね」

この問題で関係者への処分が公表された10月には副市長は退職していたが、その前副市長には自分の額を自主返納させるという措置が取られている。しかし経過を見れば「罰則を」という感想を漏らした市民に「市議会議員も含めて市役所内全体、身内意識の表れだ」と見られたのはやむを得まい。

他にW会に対して70代の女性から「今後とも市政をしつかりウオッチして市長（市議会）にとって不都合な真実を多摩市民に知らせる活動を

根気よく続けて下さい。応援しています」という声も届いている。

「それなりに受け止める」と市長

私はこれらの声をメモしたノートをポケットに入れて市役所に向かった。まず市長室に行き市長に取材を申し入れた。先に書き出したような声々を市長に伝えそれを市長がどう受け止めるのか、また91号の市長公文書批判にどう反論し、あるいはどう弁明するのか。しかしこの取材は実現しなかった。取り次いでくれた市の秘書広報課長は申し入れた翌々日、電話で「市の要請に対する回答として記事は読んだ。≡会の考え方は分かったしそれなりに受け止めている」との市長の答えを伝えてきた。

これではしかし「取材を」という要望への答えにはなっていない。私は「だから特に言うことはない」のか「会う必要はない」のか、それとも「ご多忙」なのか、取材に応じない理由の説明を取次者に求めたが、電話の向こうは時に沈黙し明確な答えは返ってこなかった。市長は何も語らずにやり過ぎそうとしているのか。課長は「もしこれ以上に質問などがあるのならオープンな場で、ということになると思います」

市長批判の声出ず―共産党

行政の監視役であるはずの議会の反応はどうか。

共産党市議の控室に行った。市議選までは6人の議員を抱え市議会最大会派の1つで市長にも影響力を持つだろう会派の見解を聞くためである。「保守・革新」という分類は最近ではあまり聞かなくなったが、この党は戦後ずうつと革新政党を任じてきた。そういう党がW会に対して「情報源を明かせ」と文書回答を求めてきた市長の「要請」をどう考えるのか。

会派代表の安斉きみ子団長からは市長批判の声は出てこなかった。内部通報者の人権を守るために「ああいう文書を出すことはあり得る」という意見だった。そして「会派で話し合いたい」から質問を書いてきてほしい、と申し出られたので、私は「取材源の秘匿」というテーマに絞って質問状を出した。会派で論議した結果は「6人の一致した意見です」とのコメント付きでペーパーで出てきた。読むと「取材源の秘匿」の意義は認めつつも「一般論としては」という条件が付いており、公文書の「要請」については「市が通報者の不利にならないよう、通報者を守るための対応をとること」も必要だと書いてあった。

この部分は安斉市議の意見にも通じるところだが、私はその場で安斉さんに素朴な疑問を呈してみた。通報のコピーの入手時期や経路を明かせという市長の「要請」に、仮にW会が応じてしまったらどうなるか。かえって共産党のペーパーが懸念する「通報者の不利」を招いたり「通報者を守」れなかったりするような事態が生じ

ないのか、という疑問である。これはもともと市長公文書の論理のヘンなところなのだが、安斎さんの口からは明快な答えは聞けなかった。

「不必要なカンگریを生む」と岩永市議

最後に議長室に行つて岩永ひさか市議の意見を聞いた。市議選まで市議会議長で多摩市議会を代表した人だが「議長としてではなく1市議として」という前提で答えてくれた。要約すると以下の2点だ。

① 事実に対していない範囲の言論なら市民からの批判があるのはむしろ健全だと思ふ。それに対して公権力が公文書で何か言ったりするのはよろしくないのではないかと。

② この文書には曖昧なところがある。こういう文書を出すのならどこが問題なのかを具体的に示すべきだ。そうでないと受け取った方も反論できないし困ってしまう。それはどうしてこんな文書を出す必要があるのか、などと不必要なカンگریを生みかねない。

岩永さんが指摘するように、市長公文書は具体性に欠けていて曖昧である。そして確かに私自身「市長は何のためにこんな文書を書きつけてきたのか」という疑問にとらわれた。私はW会の、活動はサボりっぱなしだが会員歴だけは長

い会員である。会が多摩市長からこんな文書を頂戴するのは20年間で初めてのことだ。私の（必要ではないはずの）カンگریは、阿部市長が市長名の公文書による「要請」という形で市民の運動に介入する意思を示してきた、ということである。

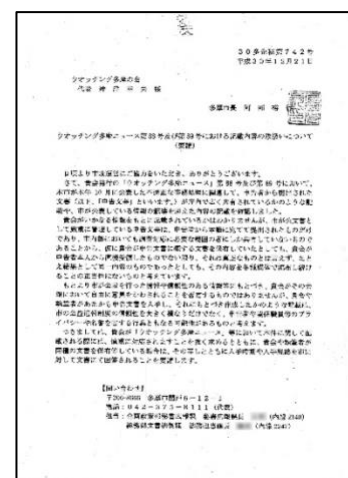
日頃より市政運営にご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、貴会発行の「ウオッチング多摩ニュース」第88号及び第89号において、本市が本年10月に公表した不適正な事務処理に関連して、申告者から提出された文書（以下、「申告文書」といいます。）が庁内で広く共有されているかのような記載や、市が公表している情報の範疇を超えた内容の記載を確認しました。

貴会がいかなる情報をもとに記載されているかはわかりませんが、市が公文書として厳重に管理している申告文書は、申告者から本職に宛てて提出されたものだけであり、市内部においても調査対応に必要な範囲の者にしか共有していないものであることから、仮に貴会が申告文書に類する文書を保有していたとしても、貴会が申告者本人から直接受領したものではない限り、それは真正なものとは言えず、たとえ結果として同一内容のものであったとしても、その内容を各種媒体で流布し続けることの正当性はないものと考えています。

もとより市が公表を行った情報や信頼性のある情報等にとづき、貴会がその会報において自由に意見をかわされることを否定するものではありませんが、貴会や執筆者があたかも申告文書を入手し、それにもとづき作成したかのような記載は、市の公益通報制度の信頼性を大きく損なうだけでなく、申告者や関係職員等のプライバシーや名誉を害する行為ともなる可能性があるものと考えます。

つきましては、貴会が「ウオッチング多摩ニュース」等において本件に関して記載される際には、慎重に対応されますことを強く求めるとともに、貴会や執筆者が同種の文書を保有等している場合は、その写しとともに入手時期や入手経路を市に対して文書にて回答されることを要請します。



左記 市からの文書の全文

私たちが目指したもの

花谷 修一

介護、子育て・教育の分野においては徐々に権限が国から地方に移管されようとしている。少子高齢化や科学技術の発展に伴って国のあり方が変わろうとしている中、地方からの発想を促そうとして近年では「地方創生」が叫ばれている。

いずれにしても、今後地方自治が担う役割は益々増えていくはずである。

そんな中で私たちの街の行政執行は円滑に進められているのか？ 他の街に負けない「地方創生」のための構想力があつてこれを実行しようとしているのか？ 市民は自分事として関心がないわけではないはずである。

地方自治においては首長の権限が非常に大きく行政執行の多くが首長に委ねられている。それをチェックするのが地方議会のまず持つて第一の重要な仕事である。 国政の議院内閣制と異なり二元代表制と呼ばれる所以である。

議員は保守・革新に囚われずに一件一件その是々非々を一人一人が論じて市民に問いかける。そして決着をつけるのが選挙のほずなのである。市民はその論理に説得力はあるのか、行政に対するチェック能力はあるのか、将来に対する構想力はあるのかを評価して一票を投じる。とは言っても今回の選挙、何が争点になっ

るの市民にはわからない。

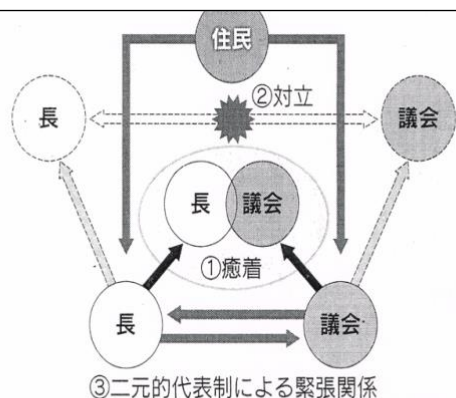
多摩市には論ずべき争点がないのか？

そんなことはない。パルテノン多摩85億、図書館50億、これだけの投資を行うのであれば、もっと多くの議論やアイデアがあつてしかるべきだ。それを選挙の前に決定してしまう。

市庁舎を建てるという。どこにどんな風に建てるかは選挙の争点にはしない。そしていつも時間がないと言つては押し切れ結局は行政案を丸呑みにしてしまう。

あえて争点を作らない。これは議会そのものの怠慢である。党派会派、そして首長との馴れ合いで争点にしないことが自身の保身だと考えているとしたら市民にとってはとんでもないことである。

山梨学院大学江藤俊昭教授の記事



③もう一つの地域経営=二元的代表制

- 議会と首長は正統性では対等
- 政策過程全体にわたり議会と首長が政策競争
- 政策過程全体にわたり住民も参加

入会申込書

氏名
住所
電話・FAX
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246
「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫
〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496
HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費 2000 円を頂いております。

議会が首長率いる行政組織に負けないだけの情報力を持つ。市民を巻き込んで対立でも癒着でもない首長と議会との緊張関係を作り出す。このような議会が私たちの議会であつてもらいたいと思う。この度議会改革を掲げる「きくち克行」氏に託したが中々理解されるには遠く及ばなかった。

しかしながら選挙の期間だけでなく日常においてこそ市民が常に市政に関心を持ち、図にあるように政策過程全体にわたり参加して市民の目で監視し発信していくことが首長と議会に二元代表制の本来の緊張関係をもたらし、一歩でも地方自治のあるべき姿に近づくと考えている。